



社協だより



手と心
つないで築く
京丹後
第89号
令和4年9月10日発行

いざという時に遭遇したら

119とAED



表紙関連記事 8 ページに掲載



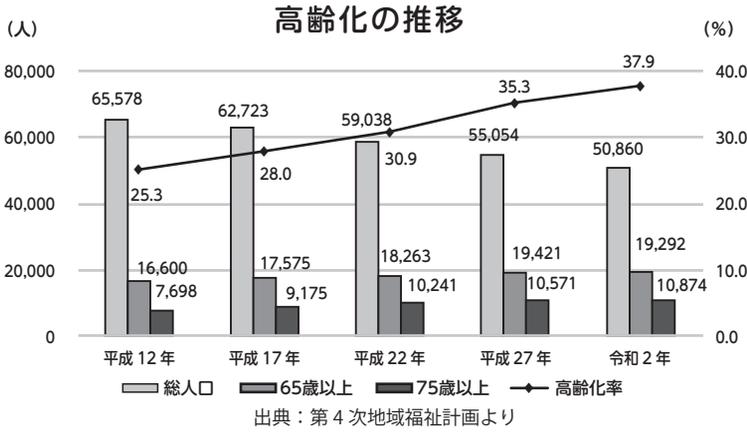
■大切な命を守るおはなし

目次

- 1P いざという時に遭遇したら119とAED
- 2P 安心して暮らすために
- 4P みんなちがってみんないい
- 6P 地域共生ステーション
- 7P 善意のご寄附・防災
- 8P あいたん広場

障害者や高齢者の権利を保護

令和2年国勢調査によると、20年前に比べ京丹後市の人口は65,578人から50,860人、高齢化率は25.3%から37.9%となっており、要支援・要介護認定者の数も増えてきています。また、高齢者に占める認知症のかたの割合も約20%となる中、障害者や高齢者の権利を保護する権利擁護による、安心して地域に暮らし続けられる仕組みづくりや地域づくりが求められています。



成年後見制度とは

認知症や知的障害、精神障害によつて物事の判断が十分にできなくなると、契約や財産管理が難しくなり、悪徳商法などの被害にあつたなど、その権利が侵害されやすくなるため、そのかたの権利擁護が必要となります。

このように判断能力が十分でないかたを守り、尊厳を保ちながら生活を手助けする制度として成年後見制度があります。

支える仕組みづくり

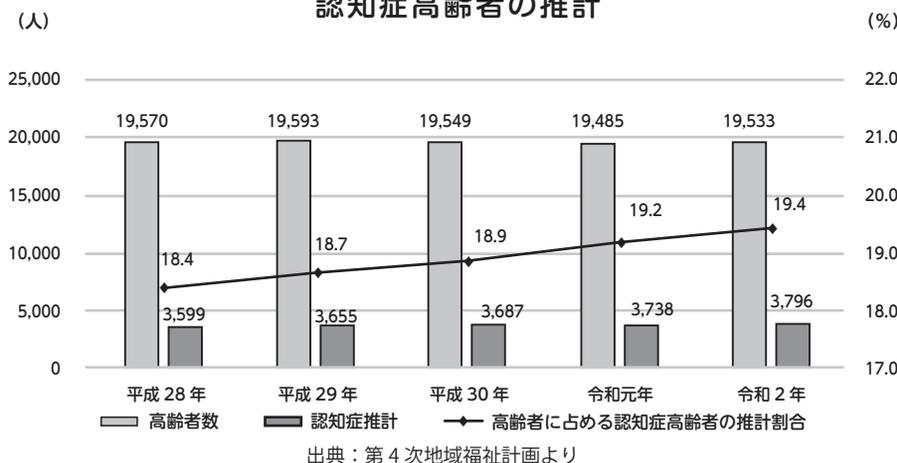
成年後見制度では、「成年後見人」が本人の代わりに適切な財産管理や契約行為などを法的に保護し、支援を行う制度です。

成年後見制度において支援をしてもらう人を「被後見人」、支援をする人を「成年後見人」と呼びます。

京丹後市では、高齢化率の増加や支援対象世帯が増加する中、世帯の形態の変化により複合化した課題が増えてきており、こうしたことに対応するべく「京丹後市成年後見制度利用促進基本計画」を策定し、支援体制として令和3年度から福祉事務所内に「成年後見サポートセンター」が設置されました。

社会福祉協議会は、市からセンター事業の一部を受託しており、成年後見制度の啓発及び広報などの情

認知症高齢者の推計



報発信と、安心して制度が利用できるよう、権利擁護支援にかかる人づくりや仕組みづくりなどを行っています。



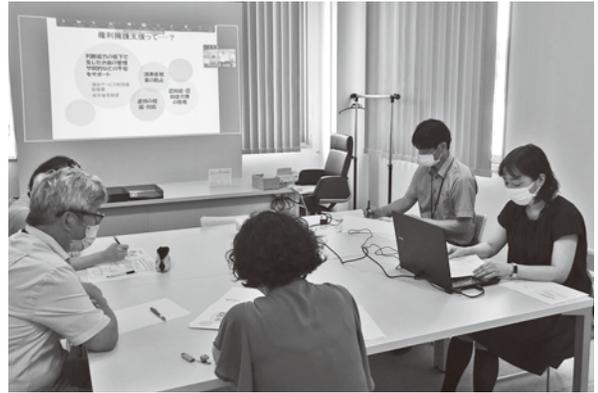
成年後見サポートセンターの設置

市では、平成29年に実施したアンケートの中で、制度の仕組みがわかりにくいとか、利用にあたっては相談支援が必要といった回答が多数を占め、また実態として市内では身寄りがないかたや親族が近くにおられないかたなどが増加しており、そうした状況から権利擁護支援に関わる担い手づくりなど、成年後見サポートセンターを設置して進めて行くことになりました。

センターの相談窓口は、京丹後市福祉事務所の長寿福祉課と障害者福祉課に置き、弁護士など専門職団体の

地域包括支援センター	H28	11
	H29	16
	H30	17
	R1	18
	R2	19
成年後見サポートセンター	R3	53

成年後見サポートセンター
0772-69-0330



市職員を講師に社協の勉強会を実施

の支援を受けながら実施しており、今後は地域の自治会や金融機関、社会福祉協議会など福祉関係団体を含めた地域連携ネットワークの体制整備を進めることにしています。

現在、市内では相談件数の増加に対して、専門職や担い手の数が非常に少ない状況であり、遠方のかたが成年後見人となるケースが増えていることから、身近な地域での関わりや支える人づくりをしていきたいと考えています。

その他の権利擁護

社会福祉協議会では、権利擁護として成年後見制度とは別に、認知症の症状や知的障害、精神障害などによって、必要な福祉サービスを、本人の判断で適切に選択し、利用することが難しいかたを対象に、福祉サービス利用援助事業を実施しています。

成年後見制度を利用するほどではないけれど、判断能力に不安を抱えておられるようなかたの、福祉サービスを利用する手続きや契約、預貯金の出し入れや支払い手続き、年金や預金通帳など大切な書類の管理などをお手伝いする事業です。

ある利用者の例ですが、毎月、介護タクシーや病院の受診代の支払い、介護保険等の更新申請が必要な書類が届いた時には、その手続きを行っているほか、担当のケアマネージャーとも連携をはかりながら、在宅生活をサポートして

います。

利用者からは、「生活支援員さんには、毎月、生活費を持ってきてもらったり、市役所への提出書類を出していただき、大変助かっている」と言っていたいただいています。

サービスの利用は、本人と社会福祉協議会が契約を結ぶ必要がありますので、ご相談ください。

☎ 0772-6512100



毎月の生活費の受け取りを確認

みんなちがって みんないい

この世界に、姿かたち、性別や年齢、価値観が全く同じという人は存在しません。その違いを認め合い、活かしあって暮らしているでしょうか。

誰もが幸せを感じながら暮らしていくためには、多様性を尊重し、友好的な協力関係や連帯感、支え合う、高め合うということが大切です。

今回は、障害やLGBT+など社会の中で数が少なく、弱い立場になりやすいかた（以下、少数派とする）が普段感じていることを聞かせていただき、多様性を認め合うことで、地域を強くしていくことを考えていきたいと思い、インタビューさせていただきました。



優緋くん

トランスジェンダーの大学生



笠井 幸子さん

車いすユーザーの言語聴覚士



小栗 郁久子さん

手話を使わない聴覚障害者

Q 少数派のエピソードを教えてください。

笠井さん

いい意味で、だれもがみんな少数派ですよ。

私の場合、中学までは身体に障害のある人がたくさんいる環境で過ごしていました。高校では障害がある生徒は私一人で、少数派になったけど、見た目ですぐにわかる障害であることから、物理的配慮など、見える部分には対応してもらいやすいとわかりました。

反面、隠しようがないから近づくてもらえなかったり、車いすでは行けないだろうと決めつけられて、遊びに誘われにくいことがあり一緒にいる方法を考えてくれる人は少数でした。

人間は、自分と違うとか、わからないと思うと距離をとってしまいうたため、見た目は「ふつう」の人たちがうらやましいと思うこともありました。

小栗さん

私には聴覚障害があつて、相手の口の動きを読みとって会話をする少数派。おしゃべりできるうえに、聴覚障害は見た目でわからないから「聞こえないんです。マスクを外して話してくれますか。」と説明をしないといけません。

ふつう、「聞こえない」「手話」というイメージが強くて、私が手話を使わないというと驚かれます。決めつけは、どの障害においても多いと思います。

優緋くん

僕は体は女性だけれど意識は男性というトランスジェンダー。

声や立ち振る舞いで「お姉さん」と判断されてしまったり、見た目だけでは理解してもらえないという経験をしてきているから、「自分にはこう見えているけど、実は違つかかな」と考えるように心がけています。そういう気持ちの人が増えてくれるといいと思います。



話してみると距離が縮まる

Q 少数派であることがプラスに働いたと感じることは？

優絢くん

基本的に女子と過(こ)しているの
で「女の子社会」の色々を知って
います。ほかの男子より女子を理解で
きるというところが、トランスジェ
ンダーである僕の強みです。

笠井さん

常勤勤務をしていたころ、私よ
り経験の浅い職員が私にはさせて
もらえない仕事を担っていて「私
だってそれができるー」ってすごく
悔しい思いをしたことがあります。

障害者ゆえに雇われていてはやり
たいことができないならと、起業
を決めました。

今では、ずっとやりたかった訪

問の仕事ができており、嫁ぎ先の
食堂に障害があってもなくても一
緒に食事が楽しめる嚙下(えんげ)食メ
ニューを取り入れることができま
した。

小栗さん

よくわかります。私には電話対
応など、努力してもできないこと
はあるけど、できることまで「で
きない」と思われることへの悔し
さが、できる力を最大に活かそう
とする原動力につながったと思っ
ています。

Q 夢はなんですか？

小栗さん

私はウクレレを弾きたいです。
子どもの頃、大好きなアイドル
の歌に合わせて、妹が私の体をポン
ポンと叩いてリズムを刻んでくれ
ました。

歌うのも好きで、車の中で音楽
をかけて歌っています。かけてい

る曲とは全く違う歌ですけどね。
あと和太鼓もやってみたいなど
思っています。

優絢くん

今、大学で養護教諭になるため
の勉強をしています。どの障害で
もいえますが、同じようでも全く同
じではありません。

人によって違うし、悩みも人そ
れぞれです。相談できる場所を
作って、セクシャリティで悩んで
いる子がいたら悩みを聞いてあげ
たいと考えています。

笠井さん

高齢、障害など関係なく、すべ
ての人が気軽に外食や旅行が楽し
めるようなインクルーシブデザイ
ンを通してこの地域を良くしてい
きたいという思いがあります。

『みんなで囲む笑顔の食卓』を
キャッチフレーズに、人と人が食
でつながる飲食店や旅館、ホテル
作りが目標の一つです。

いろいろな人に丹後に来ていた
だいて、丹後の良さを知ってもら
いたいと思っています。

インタビューを終えて

「見た目でわかるから」「見た目
でわからないから」と、理由は反
対なのに、どちらも「見た目で判
断しないぞ」という思いにつながっ
ていることが、とても興味深い
ものでした。

「話せそうで今まで話していな
い思いを、声に出して言えてよ
かった」「障害のあるなしとか、
少数派とか多数派とか関係なく、
みんなそれぞれ違いがあるけど、
話してみると距離が縮まり、分か
り合いたいという思いが芽生えて
人はつながっていくもの」と感想
をいただき、また会う約束をして
終了しました。

いろいろな人と人がつながり、
それぞれの世界が広がっていくの
を感じました。

弥栄地域共生ステーションの活動

～地区公民館活動を土台としたつながりづくり～



弥栄地域共生ステーションでは、将来的な地域の維持・存続などについて、新たなコミュニティの形成も含めた検討がまだされていない旧溝谷小学校区において、校区内での連携のきっかけづくりを考えることになりました。

今回、このうち「交流の機会」に焦点を当てて、小学校区内で実施されている団体活動の中で、地域全体を対象とした事業を考え、地区公民館へ提案することで連携のきっかけづくりを図ることになりました。

提案に先立って、まず地域でサロン活動など福祉の推進に頑張っておられる福祉委員の代表のかたと子ども会の代表のかたに集まっていたいただき、活動の現状と小学校区内で連携できる事業がないかなど懇談をしました。

旧溝谷小学校区では、現在、唯一の校区内の連携事業として地区公民館活動があります。その目的は、地域住民に「学習機会」と「交流機会」を提供し、地域の連帯感を高め、住みよい地域づくりを考えることにあります。

その中で、旧溝谷小学校区を構成する溝谷区、外村区、等楽寺区の中で、等楽寺区では近年子ども数が少なく子ども会の活動が来ていない実態があることがわかり、小学校区内での子ども会の連



地域共生ステーションの定例会議で情報共有

携事業があれば参加が可能であることがわかりました。

また、福祉委員会でも異世代交流などをテーマに、連携事業について検討をしていただいています。

そして、溝谷地区公民館とも連絡を取り合う中で、今回、子ども会のクリスマス会について、また溝谷の福祉委員会が秋に開催予定のサロン祭について、これらを地区公民館事業との連携事業として提案することになりました。

溝谷地区公民館の文化部の会議では検討の結果、連携して実施することが確認されたほか、今後、地域の活性化や活動の持続性の観点から、地域内での区や団体の活動を把握する中で、幅広く事業を検討して行くことも話されました。

プロセス(過程)を大切に

子ども会では、コロナ禍で財源確保のための活動が実施できなかったことや、かつての子ども会では中学生が主体となって計画実施していた活動が、近年では大人たちにより実施されている現状があり、今回の地区公民館への提案をきっかけに、小学校区の子どもたちが中心に作り上げるというプロセス(過程)を大切にしたい事業にして行くことが考えられています。

子どもたちには、今回の取り組みを通じ、楽しい行事の思い出を記憶に残してあげたいと思います。

善意のご寄附

あたたかいお気持ちをいただき、ありがとうございました。
(令和4年6月1日～令和4年7月31日受付分)

供養として

100,000円 亡夫 均 様 黒田 昌彦 様 (久美浜町浦明) 吉岡 澄子 様 (弥栄町等楽寺)
 100,000円 亡父 薫 様 500,000円 亡夫 正博 様

老人保健施設ふくじゅへ

田中 敏行 様 (弥栄町堤) 匿名 様 (丹後町)
 100,000円 亡父 弘 様 50,000円 亡父 様

地域福祉事業へ

株式会社ベルマリエ 様 (峰山町菅)
 6,000円 (通算192回目)

ホールインワン基金を寄附

大宮町グラウンド・ゴルフ協会 様
 10,600円

京丹後市グラウンドゴルフ協会 様
 9,600円

釣銭の一部を寄附

小市郎商店お客様 (丹後町間人)
 3,247円

家庭でできる防災・減災

毎年どこかで大きな自然災害が起こっています。
平時の今だから、災害に備えて準備や確認をしてみましょう。

備えておくべきこと

- 家の周りを見回して、樋や溝に詰まった葉っぱを取り除いたり、台風で飛びそうなのはくくったり、打ちつけたり固定をするなど対処しておく。
- 家具の固定をする。市販のつっぱり棒だけでなく、家具の上部に隙間なく段ボールを入れるのも転倒防止になります。
- 安全に逃げられるよう避難経路に物を置きっぱなしにしない。
- 非常持ち出し袋を作る。玄関や寝室など、すぐに持ち出せる場所に置いておく。
- レトルト食品や缶詰などは在宅避難のために何日分か備蓄しておく。日常生活でその備蓄食も食べ、食べたならその分だけ補充するローリングストックを実施する。
- 家族と連絡を取り合う方法・緊急連絡先・避難場所・NTT災害用伝言ダイヤルの使い方を確認しておく。

非常持ち出し袋を用意する

非常持ち出し袋はリュックで代用になります。
家族の分をそれぞれに準備しましょう。



入れるものリスト

- | | | | | |
|--|-------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ヘッドライト・懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 常備薬(薬の情報も) | <input type="checkbox"/> 家の鍵 | <input type="checkbox"/> 笛 | <input type="checkbox"/> オムツ・ナプキン |
| <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> ラップ | <input type="checkbox"/> ハンカチ・バンダナ | <input type="checkbox"/> 紙とペン | <input type="checkbox"/> ナイロン袋 |
| <input type="checkbox"/> 現金(公衆電話用に小銭も) | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ | <input type="checkbox"/> 食べ物 | <input type="checkbox"/> 身分証のコピー | <input type="checkbox"/> 服 |
| <input type="checkbox"/> 家族の連絡先メモ | <input type="checkbox"/> 軍手 | <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー | <input type="checkbox"/> ティッシュ | |
| <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ | <input type="checkbox"/> 家族の写真 | <input type="checkbox"/> 新聞紙 | <input type="checkbox"/> 飲み物(水) | |

災害ボランティアってなに？

被災した地域や住民が、元の生活に一日も早く戻れるようにお手伝いすることを目的とした様々なボランティア活動です。



【被災地での災害ボランティア活動例】

がれきの撤去・分別・泥だし・室内清掃・家の片付け・
 物資の仕分け・炊き出し・話し相手・子どもの遊び相手・
 イベントやサロン活動の支援・災害ボランティアセン
 ター運営の手伝い など

災害ボランティア事前登録者の募集

災害時に迅速な復旧・復興活動が行えるよう、事前に
 登録をお願いしています。
 登録された方々と、平時には研修や訓練を行います。
 共に災害に強い地域を作りませんか？

登録条件：市内に在住する個人、または拠点を有する
 団体や企業等・4月1日現在満15歳以上のかた
 (未成年者は保護者の承諾が必要)

登録状況：グループ8団体・個人22名
 (令和4年8月31日現在)



誰もが防災 避難所を考える講座

男女共同参画や多様性が配慮される社会が大切です。
 すべての人が主体的に関わって、災害時に何が出来る
 のかを一緒に考えてみませんか？

日時：10月6日(木) 13:30～15:30

参加方法：会場参加(弥栄地域公民館 大ホール)とZoom参加によるハイブリット研修

内容：講演「男性も女性も一緒につくる避難所」

：講師 関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授 斉藤 容子 氏

申込：10月3日(月)までに、本所(65-2100)及び丹後支所(75-0808)
または申込みフォームによりお申し込みください。



申込み用 QRコード

あいたん広場は地域でがんばっておられる人や団体の活動を紹介するコーナーです。

炊事訓練は食器づくりから

みんなまで遊び、楽しく学ぶ

ボーイスカウト竹野第一団（竹野少年隊）は、子どもたちの成長段階に応じ防災講習やキャンプ、街頭募金運動など様々な活動に取り組んでいます。

その中でも、カブスカウト（小学3年生から5年生で構成）では、「自分で考え自分のことは自分でする」「みんなでルールを作って仲良く遊ぶ」「自然や社会とふれあう」という目標をたてて活動しており、8月21日には炊事訓練を久美浜果樹センターで行い、新聞や広告を使った食器づくりと飯ごう炊さん、カレーづくりを行いました。

食器づくりは、作り方を思い出しながら「深くて食べにくいかも、もう少し浅くしよう」「置いたとき安定するように、ちょっと斜めに折ってみよう」など工夫しながら作り上げました。

飯ごう炊さんでは、「水加減間違つとろで」との指摘で挑戦し直すことも。みんな大好きなカレーは、野菜も上手にカットでき、火加減を見守りながら無事完成しました。

自分が食べるための食器、みんなが食べるための食事を、友だちと一緒につくることを通して、炊事力や応用力が身についたことでしょう。



■食べる/みんなまで食べるとさらに美味しい!



■作る/野菜を食べやすくカット!



■作る/紙は色々なものに変身できるね!



子育て応援『ゆるりら』

我が子を守る救急救命講座の開催

ゆるりらは、行政や支援センターとはちょっとちがう、その時々々に寄り添った自由でゆるい子育て応援の場づくりをしています。その活動は、切れ目のない、次世代につながる子育て支援の循環を目的としています。

そんなゆるりらのイベント『我が子を守る救急救命講座』が、8月10日に島津ふれあいセンターで実施されました。講師に弥栄病院の救急看護認定看護師谷口公太郎さんを招き、救急救命、日頃の子育ての中で気になっていることなどを教えていただき、有意義な時間を過ごしました。

ゆるりらでは毎月、さまざまなイベントや定期的な活動をしています。

『ゆるりら』は網野町木津の「月庭」を拠点に活動しています。

詳細はゆるりら HP をご覧ください。



ゆるりら HP



instagram



公式 LINE



■心臓マッサージはとぎれない連携プレーで命をつなぐ

職員の採用

〈採用〉 令和4年9月1日付【ふくじゅ】 田村 環奈(生活課) 中江 由季(管理課)

発行 / 社会福祉法人 京丹後市社会福祉協議会

〒627-0111 京都府京丹後市弥栄町溝谷3464 TEL 0772-65-2100 FAX 0772-65-3294
<http://www.kyoshakyo.or.jp/kyotango/> E-mail: info@kyotango-shakyo.jp
 FBアドレス <https://www.facebook.com/kyotangoaitan>
 婚活支援センター「出会い京丹後」専用HP <https://www.deai-tango.com>
 京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ専用HP <https://yasaka-fukuju.jp/>

峰山支所 (峰山総合福祉センター隣 TEL 62-4128)
 大宮支所 (市大宮福祉会館内 TEL 64-2037)
 網野支所 (網野健康福祉センター内 TEL 72-0797)
 丹後支所 (市丹後庁舎内 TEL 75-0808)
 弥栄支所 (市弥栄庁舎内 TEL 65-2100)
 久美浜支所 (市久美浜庁舎内 TEL 82-0008)